

調査日:2018年6月13日、7月20日、8月31日(9:00~12:00)

科名	種名	6月	7月	8月
カモ科	マガモ	1		
	カルガモ	12	23	32
カイツブリ科	カイツブリ	34	20	20
ウ科	カワウ	79	77	179
サギ科	ヨシゴイ		1	
	ゴイサギ			1
	アオサギ	8	3	3
	ダイサギ		6	30
	チュウサギ			32
	コサギ		6	7
クイナ科	オオバン	12	9	7
チドリ科	コチドリ			1
カモメ科	アジサシ			1
	クロハラアジサシ		4	
タカ科	トビ	3		
カワセミ科	カワセミ	3	1	6
カラス科	ハシボソガラス			7
ツバメ科	ツバメ	2		
セキレイ科	ハクセキレイ			4
外来種	コブハクチョウ	35	29	33
12科	19種	189	179	363

\*写真は調査区外で撮られたものもあります



カイツブリ (6月)



オオヨシキリ (6月)



カルガモ (7月)



ヨシゴイ (7月)



コチドリ (8月)



ダイサギ (8月)

# あびこ鳥だより

Autumn  
2018

【秋号】

ABIKO BIRD MUSEUM LETTER Vol.52



## 利用案内

- 開館時間 午前9時30分~午後4時30分
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、館内整理日、年末年始(12/29~1/4)

	区分	個人	団体
入館料 (当日有効)	一般	300円	240円
	高校生・大学生	200円	160円
3館共通入館料 (1か月有効)*	一般	600円	
	高校生・大学生	400円	

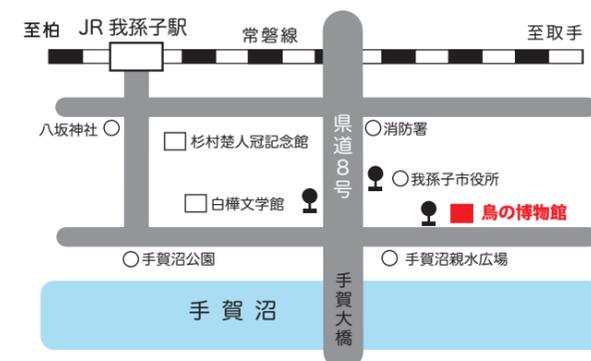
- ・入館料免除の方①70歳以上の方 ②障害者手帳等をお持ちの方(付き添い1名含む)
- ・中学生以下の方は入館無料
- \*白樺文学館、杉村楚人記念館との共通券

●お問い合わせ:我孫子市鳥の博物館  
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山234-3  
☎:04-7185-2212 FAX:04-7185-0639



## 交通案内

JR 我孫子駅南口バス停より市役所経由  
バスで「市役所」下車、徒歩5分  
\*毎週土日祝日は博物館行きのバスが運行しています  
我孫子駅南口バス停より、天王台行きバスで「鳥の博物館」下車  
天王台駅南口バス停より、我孫子駅行きバスで「鳥の博物館」下車  
自動車利用の方は地図をご覧ください(駐車場無料/大型バス駐車可)



## 【特集】

シギ・チドリはどこから来てどこへ行く?

## 【最新情報】

ジャパン・バードフェスティバル2018が開催されます!

「シギ・チドリはどこから来てどこへ行く？」

手賀沼の岸边や周辺の水田では、これまでに47種のシギ・チドリの仲間が記録されています。しかし、そのうち、毎年繁殖記録があるのはコチドリとタマシギの2種だけです。そのほかは渡りの途中に立ち寄る旅鳥、または越冬する冬鳥です。彼らはどこからやって来て、どこへ行くのでしょうか？

シギ・チドリ類には長距離の渡りを行うものが多く、中にはオオソリハシシギのように、アラスカからニュージーランドまで11,000kmもの距離を一気に渡るものもいます。

我孫子市で2014年の春に観察した、カラーリングが装着されたムナグロ(写真1)は、アラスカで標識された個体でした。アラスカで繁殖するムナグロは、秋になると太平洋を一気に南に渡り、ハワイなど太平洋の島々で冬を過ごします。そして、次の春になると今度は北西方向に移動し、日本の水田で餌を取りしばらく過ごした後、再び一気に繁殖地に戻る渡りを行うことが最近の研究で分かってきました。私が観察した標識個体は、まさに春の渡りの途中に我孫子市を中継地点として利用していたところだったと考えられます。田植えのために水が張られた水田地帯は、シギ・チドリにとって、高速道路のサービスエリアのような中継地点としての役割を担っているのです。

こうした移動の研究のために、捕獲した鳥に個体識別のための標識をつけて移動を追跡する調査が世界各地で行われています。私も環境省の学術捕獲許可を得て、利根川の下流域でジシギ類やヤマシギを主な対象に調査を行っています。そのうち、関東地方で放鳥したヤマシギは、これまでに海外で2例回収されています。興味深いことに、2例とも回収場所は繁殖期のサハリンで、関東地方に越冬期に渡来するヤマシギはロシアの極東地域から渡って来ているものがあることがわかりました(写真2)。



写真1: カラーリングを標識されたムナグロ雌成鳥。2014年5月3日 我孫子市上沼田で撮影。



写真2: 2016年1月に利根川下流域で標識放鳥されたヤマシギ第一回冬羽。同じ年の7月にサハリンで死体で発見された。



写真3: カラーフラッグによって標識されたムナグロ雄成鳥。



写真4: オオジシギの脚に標識されたカラーフラッグ。利根川下流域では、右足ふし(ふしよ)に金属足環、左足の脛とふしにそれぞれ青のフラッグを標識している。

最近では、野外観察からでも個体識別ができるように、カラーリングやカラーフラッグの利用が進んでいます。2018年4月から、利根川下流域でも番号入りカラーフラッグの装着を始めました(写真3・4)。このようなフラッグをつけたシギ・チドリを見つけたら、ぜひフラッグに刻まれた番号を撮影し、山階鳥類研究所の保全研究室までお知らせください。シギ・チドリの移動経路や渡りのタイミングを解明し、保全に役立つための貴重なデータになるはずです。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

ジャパンバードフェスティバル 2018 が開催されます！

ジャパンバードフェスティバル(Japan Bird Festival/略称:JBF)は、手賀沼周辺で行われる鳥をテーマにしたイベントです。ミニライブやトークショー、鳥学講座、バードウォッチングツアー、双眼鏡やスコープの体験、野鳥撮影体験、スタンプラリー、写真展、バードカービング作品展、野鳥関連グッズの販売、全国各地からの自然や野鳥保護団体の展示など「遊ぶ、学ぶ、親しむ」を楽しむ2日間です。今年は11月3日(土)、4日(日)に開催されます。

鳥の博物館では鳥の工作とクイズのほか、講座を2つ企画しています。3日(土)は私たちに身近な鳥スズメについて鳥類研究者の三上修さんにお話しいただきます。最近減っていると言われていたのは本当なのか、人の文化とスズメはどのように関わってきたのか、知っているようで知らないスズメの生態についてのお話です。4日(日)は海のゴミが水鳥やウミガメ、鯨類に及ぼす影響についてのお話です(詳細は下表参照)。



鳥の博物館のイベント

	日時	イベント	場所	定員(先着)
11月3日(土)	10:00~11:00	工作イベント「ハシビロコウの帽子をつくろう」	鳥の博物館	30名
	13:00~14:00	てがたん in JBF (自然観察会)		15名
	14:00~15:30	鳥博クイズ		150名
11月4日(日)	13:30~15:00	鳥学講座「スズメ研究のスズメ」 講師：三上修さん(北海道大学函館校 准教授)	アピスタ (我孫子市生涯学習センター)	120名
	10:00~11:00	工作イベント「ハシビロコウの帽子をつくろう」	鳥の博物館	30名
	10:30~11:30	ゲストトーク「海ゴミ GO(ゴー) ME(ミー)!~ゴミが鳥や動物に与える影響、減らすために私たちができること~」 ゲスト：葉山久世(神奈川野生動物救護連絡会)		50名
	13:00~14:00	てがたん in JBF (自然観察会)		15名
14:00~15:30	鳥博クイズ	150名		



過去のジャパン・バードフェスティバルの様子

イベント情報

●展示

- 第81回企画展「我孫子の都市鳥」  
期間：7/14(土)~11/25(日)  
場所：博物館2階企画展示室
- 第82回企画展「友の会展」  
期間：12/8(土)~2019.1/14(月・祝)  
場所：博物館2階企画展示室

●講演・室内イベント

- テーマトーク  
日時：毎月第3土曜日 13:30~14:15  
(11月のテーマトークはありません)  
場所：博物館2階多目的ホール  
定員：先着50人(参加無料)  
講師：山階鳥類研究所員

●自然観察会

- てがたん~自然観察会~  
日時：毎月第2土曜日 10:00~12:00(雨天中止)  
定員：なし  
集合場所：博物館入口(予約不要)
- あびこ自然観察隊③「晩秋の手賀川観察会」  
日時：11月23日(金・祝) 9:00~12:00  
集合場所：新木駅南口  
内容：冬の農地にやってくる鳥を観察します  
定員：30人(小学3年生以下は要保護者同伴)  
申込み：鳥の博物館 04-7185-2212  
\*11/1より電話申し込み開始

2018年10月~12月

自然観察会は高校生以上の方は保険料100円がかかります  
館内で行うイベントは参加無料でも入館料が必要です